

江戸川区における親水公園の経済的価値に関する研究

—小松川境川親水公園を対象として—

A study on the economic value of waterfront parks in Edogawa

-Focusing on Komatsugawa Sakaigawa Waterfront Park-

○相馬咲良¹, 豊田侑生², 菅原遼³

*Sakura Soma¹, Yuki Toyoda², Ryo Sugahara³

Abstract: In this paper, we conducted a questionnaire survey of users of Komatsugawa Sakaigawa Waterfront Park, quantitatively evaluated the park in monetary terms using the contingent market method (CVM), and clarified the relationship between distance from the target site and value perception. As a result, we found that the waterfront park is relatively important to users and is used daily. We also found that the waterfront environment and natural environment are valuable to users.

1. はじめに

我が国では、都市部において1970年頃から水辺空間や緑地の不足が問題視されていた。その解決策として、1973年に整備された江戸川区古川親水公園をはじめ、全国に多数の親水公園が整備されてきた^[1]。こうした親水公園は、環境問題に対する解決策のみならず、地域住民にとって親しまれる公園となっている。しかし近年では、整備・運営のコストが増加傾向にあり、今後も人件費の高騰や施設の老朽化から安定した維持管理費が必要になると予想される。

本稿では、東京都江戸川区小松川境川親水公園の利用者を対象に、仮想市場法(CVM)を用いて金額として定量的に評価するとともに、その価値認識と利用者の来訪距離との関係性を捉えることを目的とする。

2. 調査概要及び対象地の概要

Table1.に調査概要を示す。本調査は、被験者属性や小松川境川親水公園に対する評価についてアンケート調査を実施した。調査地点は、小松川境川親水公園の全長を1kmずつに分割し、計4地点で行った。有効回答数は117件(80.7%)であった。

また、対象地となる小松川境川親水公園の維持管理費用は、2023年度に調査した結果、年間35,943,000円であることがわかった。本稿では、利用者による親水公園の価値認識を踏まえ、維持管理費用を比較した。

3. 親水公園の利用者状況

3-1. 親水公園の重要度及び満足度

Fig1.に親水公園に対する総合的な重要度(5段階評価)と総合的な満足度(5段階評価)をクロス集計した結果を示す。重要度は「とても重要」、「まあまあ重要」に80%以上の回答が見られ、満足度は「とても満足」「まあまあ満足」に80%以上の回答が見られた。

Table1. Outline of the study

項目	内容
調査対象	東京都江戸川区小松川境川親水公園の利用者
調査方法	紙面上でのアンケート調査
調査期間	2024年7月28日(日) 9:00~14:00
有効回答数	117/145 (80.7%)
アンケート項目	①被験者属性
	②親水公園への来訪頻度と来訪目的
	③親水公園の重要度と満足度
	④CVMを用いた親水公園の経済的価値

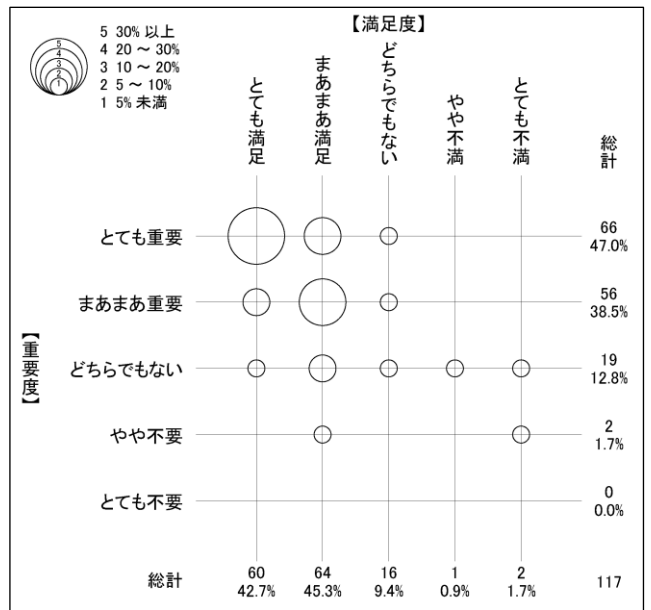


Figure1. Satisfaction and important cross tabulation

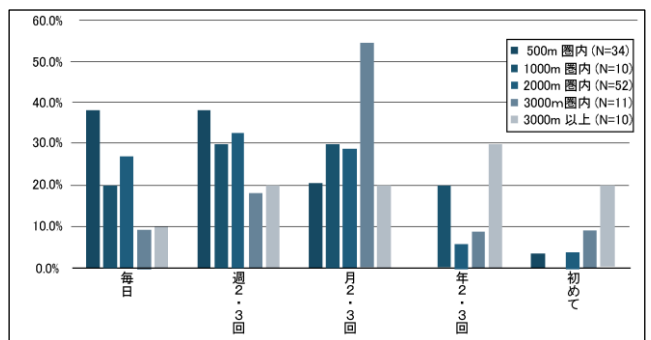


Figure2. Visit frequency

1: 日大理工・学部・海建 2: 日大理工・院(前)・海建 3: 日大理工・教員・海建

以上より、利用者は親水公園に対して高い重要度と高い満足度があることがわかり、生活環境の中で親水公園を比較的重要視している傾向が窺える。

3-2. 距離別の来訪頻度及び来訪目的

Fig2.に距離別の来訪頻度, Fig3.に距離別の来訪目的を示す。まず、距離別の来訪頻度に着目すると、500m圏内で「毎日」、「週2・3回」が多く、3000m以上では、「年2・3回」が最も多い。また、距離別の来訪目的に着目すると、500m圏内で60%以上が「散歩ルート」を目的としており、遠方になるにつれて減少した。一方、「遊び場」は遠方につれて増加する傾向が見られた。

以上より、小松川境川親水公園は、距離により来訪目的が異なり、近隣の利用者は「散歩ルート」として、日常的に利用している状況が窺える。

4. 親水公園の経済的価値

4-1. 有効回答の抽出と支払意思額

Table2.にアンケート調査の結果を示す。本章では、調査対象者を江戸川区民とし、96件の有効回答より分析を行った。調査の結果、小松川境川親水公園に対する一世帯あたりの支払意思額の中央値は1,000円となり、平均値は4,817円となった。

4-2. 属性別にみる価値評価の傾向

Table3.に属性別の支払意思額の平均値を示す。まず、年齢に着目すると、「40代」、「50代」が6,000円以上を示し、高額になる傾向が見られた。これは、平均所得金額による影響と考えられる。また、来訪頻度に着目すると、「毎日」、「週2・3回」が高額になる傾向が見られた。さらに、来訪目的に着目すると、「通学・通勤」、「散歩ルート」が高額になっている。これは、利用者にとって日常利用の場として親水公園が位置付けられていることが窺える。

4-3. 距離と価値評価の関係

Fig4.に距離と支払意思額の関係を示す。散布図から距離が遠くなるにつれて、支払意思額が低くなる傾向が見受けられる。そのため、評価は居住地と親水公園との距離が影響しており、親水公園に近いほど価値認識が高いことが窺える。

4-4. 維持管理費用の比較

調査の結果、小松川境川親水公園に対する1世帯当たりの支払意思額の内、低額である中央値を用いて世帯数を乗ずると、348,234,000円になった。2023年度の年間の維持管理費用35,943,000円と比較すると大幅に経済的価値が高額になっていた。

5. まとめ

本稿では、小松川境川親水公園の利用者を対象に、

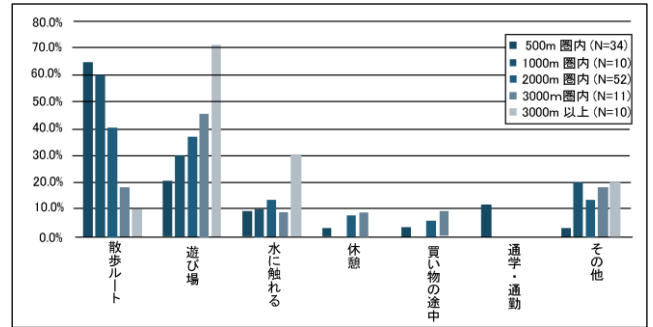


Figure3.Purpose of visit

Table2.Survey results

配布	回収	有効回答	正常回答	抵抗回答	抵抗回答発生率	中央値 WTP	平均値 WTP
145	117	96	61	35	36%	¥1,000	¥4,817

Table3.Willingness to pay by attributes

属性		該当者数 (%)	支払意思額平均値 (円)
性別	男性	38 (62.3)	5,819
	女性	22 (22.9)	2,852
年齢	20代	1 (1.0)	3,000
	30代	15 (15.6)	2,493
	40代	19 (19.8)	6,684
	50代	8 (8.3)	7,833
	60歳以上	18 (18.8)	3,824
来訪頻度	毎日	14 (14.6)	4,917
	週2・3回	20 (20.8)	7,200
	月2・3回	19 (19.8)	2,106
	年2・3回	4 (4.2)	2,000
家族構成	初めて	4 (4.2)	7,625
	1人暮らし	5 (5.2)	4,400
	2人暮らし	19 (19.8)	5,847
	夫婦と子供	29 (30.2)	4,034
来訪目的	2世帯暮らし	7 (7.3)	5,857
	散歩ルート	24 (25.0)	5,847
来訪目的	遊び場	27 (28.1)	3,346
	水に触れる	11 (11.5)	3,200
	通学・通勤	3 (3.1)	8,333
	その他	9 (9.4)	5,333

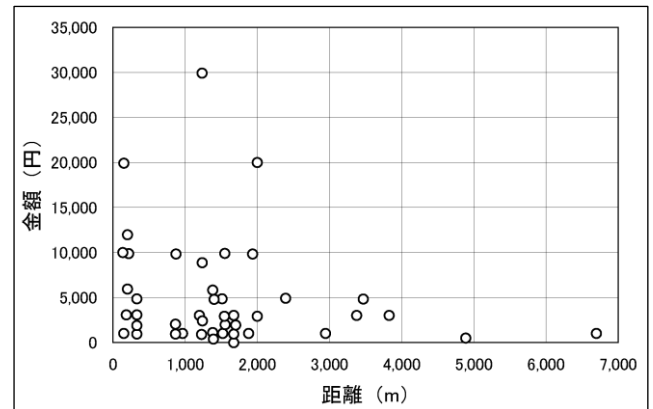


Figure4.Distance and willingness to pay

親水公園の経済的価値に関するアンケート調査を行った。その結果、小松川境川親水公園は利用者にとって比較的重要視され、現在の環境に満足していることがわかった。また、小松川境川親水公園を日常的に利用している利用者や、居住地の距離が近い利用者ほど価値認識が高い傾向が確認できた。

参考文献

[1] 上山肇:「親水公園の利用実態と評価に関する研究」, 日本建築学会計画計論文集, 第462号, pp127-135, 1994.